

かけはし



平成25年1月30日、一宮市とイタリア共和国トレヴィーゾ市が友好都市提携を結びました。トレヴィーゾ市はイタリアの北部、ヴェネチアの北約30kmにある都市で、中世ヨーロッパの雰囲気を残す気品ある美しい街です。一宮市長はトレヴィーゾ市長に「絆」と自筆で書いた色紙を渡し、「人と人との結びつきを大切に交流を通じて、お互いに発展し、次代を担う子どもたちに輝かしい未来を残しましょう」と固い握手を交わされました。

『ノーベル平和賞受賞者』一宮市で講演!!



ジョゼ・ラモス=ホルタ氏

『国際平和シンポジウム2012in一宮』がi-ビルのこけら落とし記念講演会として、東ティモール前大統領ジョゼ・ラモス=ホルタ氏をお招きし、盛大に行われました。i-ビル・シビックホールは一杯(180名、募集定員150名)の人であふれ、熱心に聴いておられました。

ホルタ氏は講演で、「アジア各国が手を取り合い、二十一世紀の平和を支えよう」とこれからのアジアの未来像について話され、日本が受けた二度の原爆被害に触れられ、「日本人は戦争の対価と平和の価値を知っている。忘れることなく世界平和をリードして行ってほしい」と語りかけられました。

講演のあとパネルディスカッションとなりパネラーには一宮市長谷一夫氏を始め、国際平和研究財団、日本平和学会、世界ユネスコ連盟など平和をテーマにしたさまざまな団体のトップの方々において頂き、前大統領の講演を受けてそれぞれの立場からお話をされました。

谷市長からは平和都市宣言のいきさつやその実現のため、毎年さまざまな催しを行っていること、努力していることを熱心にお話しされ、トレビーゾ市との友好都市提携、グローバルタウン、あるいはフェアトレードの推進などのお話をされました。アメリカジョージア州にあるケネソー州立大学のリンダ・ジョンソン氏も出席され、平和学の重要性のお話をいただきました。ジョンソン氏は、平和を学びたい世界中の子供達がかみで学べる環境を作ったり、各地の紛争解決活動の為『国際平和研究財団』の会長をされています。

他のパネリストの皆さんからもそれぞれのご専門の第一人者のお立場から有意義なお話をされました。その中で皆さんがおっしゃっていたのは

ジョゼ・ラモス=ホルタ氏

東ティモールの政治家。同国大統領、首相を歴任した。ディリ出身。東ティモールの独立運動に関わり、1996年には「ノーベル平和賞」を受賞している。独立運動では、彼自身も銃撃され、九死に一生の経験をしている。



リンダ・ジョンソン氏と谷市長

“平和の文化” “市民→自治体→国→世界へ拡げていく、そういう中で1人1人が努力し、平和の文化の輪を広げていくことがとても大切なことであるとのことでした。

『平和都市宣言』これは一宮市が、先の大戦で数多くの市民が悲惨な目に会い、平和の大切さを後世に伝えていくために戦後50年の節目に当たる平成7年秋、恒久平和に向けて努力することを決意し、平和都市であることを宣言したものです。東ティモールの人々も一宮市民も平和を願う気持ちは同じだと思います。しかし今も緊張が続く東ティモールと60年以上も戦争を経験していない日本とでは平和を願う市民の思いには違いがあり、その意味ではホルタ氏の講演やパネルディスカッションで皆さんが提案されたことをしっかり受け止め実行していくことが大切だと感じました。



BUON GIORNO!

新しい国際交流員

バレーボール、音楽、
ドラマが大好き

フライタ・ウァレンティーナです

プロフィール

イタリア ブルゲーリオ出身

27歳 156cm

両親・弟の4人家族



日本に興味を持ったきっかけは漫画でした。私の高校生時代はイタリア語で訳された日本の漫画が大ブームだったので、ほとんどのクラスメートが漫画を読んでいました。初めて読んだ漫画は「スラムダンク」でした。

ミラノ大学・大学院で5年間日本語を勉強してから、9ヶ月くらい渋谷の日本語学校に留学しました。漢字の勉強は大変ですけど、面白いと思います。これからも、もっと漢字を覚えるように頑張りたいと思います。

日本のドラマと音楽が大好きで、大学生の時代は日本語の勉強にとっても役に立ちました。とても楽しい練習でした。

料理が好きですが、あまり上手じゃないです。でも、子供のころ父にピザの作り方を教えてもらいましたから、ピザは上手にできます。日本食が大好きなので、日本料理を習いたいと思います。

少しシャイなところがありますが、フレンドリーな性格だと思います。ですから、遠慮なくいろいろ声をかけてください。

退任されたスカラベッコ・ガイドさんから お別れメッセージが届きました



一宮で過ごした15ヶ月は、とても有意義な日々でした。国際交流員としての仕事は、小学校、中学校での学習交流、国際理解講座、友好都市との連携に関する仕事などがあり、それを通して、自分の国ではできなかったことをたくさん経験しました。

一宮市役所で学校訪問の準備をしたり、翻訳をしたりしていた日々、ウェルカム・サロンで過ごした日曜日の午後、ニュージーランドの国際交流員と一緒に一生懸命準備していたダンス・セミナー、学校訪問時子供の温かい歓迎、ジローラモさ

んのことを聞かれた数えられないほど多い場面、また、一宮でできた友達とお好み焼きを食べながら話をした居酒屋さん…。15ヶ月の思い出は次から次へと頭の中に浮かんでいきます。一宮ですばらしい時間を過ごし、思い出がいっぱい残っています。

何よりも一宮市の人々に感動しました。親切にしてくれて、多くのことを教えてくれた人々に心から感謝しています。皆さんのおかげで一宮市滞在中、素晴らしい経験ができました。本当にありがとうございました。



一宮の街中が **イタリア** **イタリア** **イタリア**!

イタリアフェア2012～世界は友だち! 東北復興の願いとともに～



11月3日と4日、一宮の本町商店街周辺と、新しくなった一宮の駅ビル(i-ビル)3階のシビックテラスで『イタリアフェア2012～世界は友だち!東北復興の願いとともに～』が開催されました。



街中のあちらこちらに、様々なブースを出店し、色々な視点からイタリアを理解してもらうための展示や、一宮市と友好都市としてお付き合いすることになったイタリアのトレビーズ市の紹介をすることを目的としています。では、今回のフェアの一部を紹介しましょう。



本町通りを歩いてまず目に飛び込んでくるのは、イタリアの国旗の緑・白・赤のポスターや看板。街のあちこちがイタリア色で埋め尽くされていました。

いつもよりカラフルに彩られた本町商店街をそぞろ歩くと、大通りの真ん中にいちみんをはじめ、東北から駆け付けてくれた、ゆるキャラがあちこちで子ども達と遊んでいます。

頬に鮮やかなイタリア国旗や、いちみんの図柄をフェイスペイントした子どもたちは元気に本町通りを走り回っていました。

イタリアを代表するワインやパスタ、スイーツそ



の他に、アクセサリーや服飾品等を展示販売する店も沢山並んでいます。

店を運営する皆さんが、道行く人に熱心に

説明している様子を見ると、今回のイタリアフェア2012に対する熱い思いがひしひしと伝わってきます。

さらに足を先に進めると、アーケード商店街中央付近に特設ステージが設営され、何やらにぎやかな音楽が聞こえてきます。イタリア人のマンドリン奏者の素敵な演奏です。

小学生による鼓笛隊演奏の元気いっぱいのパフォーマンスや、ペルーの民族舞踊の華やかな踊りをカラフルな衣装とともに観ることが出来ました。



新しくなった一宮駅ビル3階にあ



るシビックテラスでは、イタリアを紹介する特設コーナーが設けられ、イタリアの文化や歴史、地理、絵画に至るまで、様々な情報が一目で理解できる展

示の品で壁が埋め尽くされています。

開放的なシビックテラスの特設ステージでは、一宮在住のソプラノ歌手がカンツォーネを熱唱。このフェアを盛り上げるパワフルな歌声に観客は終始圧倒されていました。

駅ビルを離れても、シビックテラスからの音楽は道路まで響き渡り、街中がイタリアフェアであふれていると実感できる二日間でした。



ワ イ ・ ワ イ ・ エ ー
wai-wai-a フォトサロン

びさいまつり

10.27~28



クイズでMini学習



手にもペインティングしてもらったよ!

Miniクイズやフェイスペインティング、ピニャータ、プレゼピオづくりなど楽しみました。

外国人無料健康相談会

尾西生涯学習センター

11.18

外国人の方は、ことばの心配もあり病院に行く機会が少なく、この相談会を利用して診てもらいました。



歯を診てもらっています



問診も通訳さんがいて安心です

美しきまちトレビーズ

三岸節子記念美術館

11.28~12.2



堀尾一郎画家と谷市長



絵の説明を聞く

堀尾さんのイタリア、トレビーズ市の風景スケッチ紀行報告を聞き、友好都市の街並みに夢を馳せました。

スポーツ交流(ソフトバレー)

一宮市総合体育館

1.27

今年は新しい総合体育館で開催。六カ国の外国人のみなさんたちと、小学生から大人の混成チームでたのしく熱戦が繰り広げられました。



日本語を教えてほしい子が一宮にたくさんいます!

一宮市に住む外国人登録者数は、県内で10位ですが、ほとんどの市が減っていく中、一宮市は増加しています。一宮市内小中学校に通う、指導を求めるところは約70名、うちケアされているのは20名ほどです。手が足りていないのが現状です。

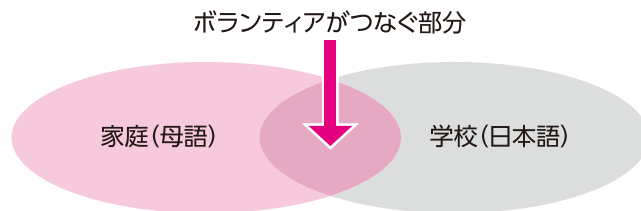
この講座では、ボランティアで子どもたちをサポートすることの重要性とその実践方法について名古屋YWCA日本語教育セミナーの講師から学びました。

学校に通う子どもたちは、日常会話を理解するだけでなく、学校の勉強を理解する必要があります。数年経てば、高校進学(受験)という現実があるため、のんびりもしてられません。彼らの大きな特徴に、

- *親の都合で来日したため、日本語への学習意欲が低い
- *わからない日本語で、さまざまな科目の勉強をしなければならない
- *母語が確立しないまま日本に来た子どもは、置き換えることができない

などが挙げられます。

ボランティアの役割は、学校と家庭をつなぐことです。子どもを母語+日本語のバイリンガルに育てることが理想です。



「あいうえお」を覚えるには、桃太郎の曲に合わせて歌うことや国語の教科書の文章をやさしく要約する方法、時間の教え方などいろいろな工夫があることが語られました。学校生活や勉強方法の各国の違いもたくさん挙げられました。

ボランティアは大変なこともあります。子ども達は、困った時に相談できる大人がそばにいて安心して過ごすことができます。言葉も心も成長する時だからこそ手を差し伸べてくれる人が必要です。



12.22 青年の家

みんなで手作り ワイワイ、クリスマス会

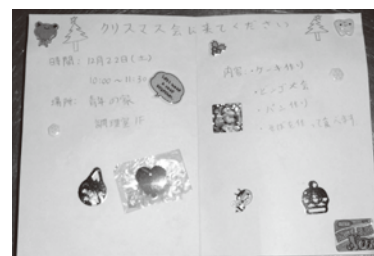
日本語ひろばジュニアの子どもたちが、手作りでクリスマス会の招待状を作り、学校や近所の友達に声をかけ誘いました。

当日は雨にもかかわらず、たくさんの友達、親戚さん、ボランティアの方々の参加がありました。ケーキを作る人、パンを焼く人、そばを打つ人、その周りには人、人、人。

フィリピンのお母さんの話では、自国のクリスマスは、24日の夜中12時になったら、パーティが始まり、プレゼントを開けたり食事をしたりして、その後皆で教会に行くそうです。オーストラリア人親子の話では、この会は学校の校長先生から教えてもらった。



そうです。日本の学校では国語が難しくて1月にはオーストラリアへ帰るけれど、今回参加できたことは良い思い出になったとのこと。また、中国人のお母さんからは、自分もこんな風にボランティアをやりたいと手を挙げてくれるぐらい温かい会になりました。ケーキや焼きたてのパンを食べて大満足でした。



エジプト大好き!

後藤千明さんは、青年海外協力隊プログラムオフィサーとして、昨年3月からエジプト・カイロのNGOで活動しています。

青年海外協力隊 後藤 千明

私は現在、青年海外協力隊としてエジプト・カイロにあるNGOで活動中です。このNGOは、子ども・青少年・女性支援活動を行っています。エジプトは、カイロ中心部は大都市として発展していますが、カイロ郊外や地方で暮らす人々の生活は決して豊かなものではありません。学校に行けず朝から夜遅くまで働いている子どもも沢山います。ここで私は、女性の権利を守り、収入・地位の向上を目指し、農村地域や貧困地域に暮らす人々の生活が少しでも豊かになることを目標に活動しているプロジェクトチームに配属されています。



現地NGOのスタッフ

女性たちが技術を身に付け、手工芸品や伝統工芸品を製作しそれを販売することによって、継続して収入を得られるようにサポートしています。現地のスタッフと共に、女性たちが作った商品をバザーで販売したり、販路開拓を行っています。エジプトのパワフルな女性たちが、生き生きと働き収入を得ることによって、その家庭が明るくなり、子どもたちの健康が守られ、教育が十分に受けられる環境へと変わっていくことを願いながら活動を行っています。



同じチームの同僚とバザーに出店

休日は、エジプト人の友人宅へ遊びに行ったり、現地のガールスカウト・ボーイスカウト活動に参加させてもらっています。エジプトの人たちは、お客さん

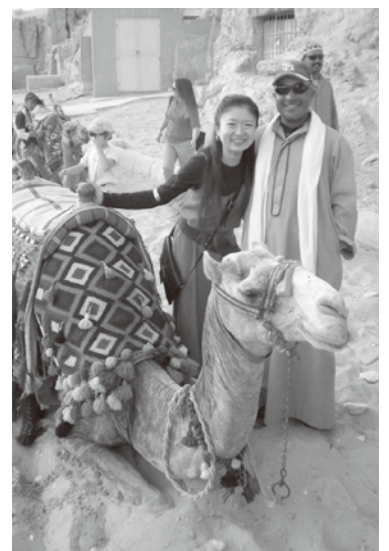
を歓迎しもてなすことをとても大切にされていて、道を歩いても沢山の人が「エジプトへようこそ!」と声をかけてくれます。観光地のお土産物屋に行くと、エジプトの甘くて美味しい紅茶を振舞ってくれ、友人のお宅へ行くと、時間と手間をたっぷりかけた手料理をご馳走してくれます。



熱心に日本語を勉強している親日家の友人たち

エジプトでの生活は、日本の便利で快適な生活とは程遠く苦勞することもあります。それ以上に毎日、笑顔を絶やさないエジプトの人々に数え切れない程の親切を受け、苦勞など忘れてしまいます。そして、家族の絆の強さ、人を思いやりもてなす心を彼らから教えてもらいました。また革命の時は、自分たちの国は自分たちの力で変えられるという強い信念と、諦めない姿勢を世界中に示してくれました。

エジプトは、魅力溢れる素晴らしい国です。壮大な遺跡の数々、広大な砂漠、真っ青な海、穏やかなナイル川、人々の活気に満ちる賑やかな町も、温かい人柄も、私は大好きです。革命を経てエジプトは今、新しい国へと変わりつつあります。近い将来、全てのエジプトの人々にとって良き政治が行われることを、そして、再び以前のように世界中から沢山の観光客が訪れ、エジプトの魅力を知ってもらえるようになることを、心から願っています。



ピラミッドエリアで働く友人

おとなりさん



みなさんこんにちは。
田中マリッサと申します。
生まれはフィリピンのダバオで、小学校6年の時に一宮に来ました。

日本語は青年の家の「日本語ひろばジュニア」などで学びました。

今、一宮高校定時制の1年生で、陸上部で100mハードルをやっています。24年6月の県大会では2位に入り、全国大会で国立競技場まで行きましたよ。

練習は週3回放課後、夜9時からの40分間です。短い時間ですが、指導の日景先生からは「転んでもいいから思い切って跳べ」といわれています。練習は楽しいです。

一宮は大好きです。ゴミがなく清潔です。日本の食べ物はバランスがよく、健康的だと思っています。私は天ぷらと寿司が好きです。てんぷらは何でも食べますし、寿司はかつぱ巻とウニが好きです。

フィリピン料理はアドボが得意です。鶏肉や野菜をお酢と醤油で煮込んだもので、とてもおいしい家庭料理です。皆さんに一度食べさせてあげたいな。

将来の夢は大学を出て、フィリピンに帰り、先生になって子供たちに日本語を教えることです。

取材に同席された先生から一言

日景先生

「努力家です。もともと日本語を学んでほしい」

高橋教頭先生

「継続は力なり」

世界のあそびシリーズ ウクライナ



ПОДОЛЯНОЧКА(ポドリャーノチカ)

一宮市にお住まいでウクライナ出身のユリアさんに、子供の頃の遊びを教えてくださいました。「ポドリャーノチカ」は女の子の名前です。



ユリアさん10歳の頃

♪Десь тут була подоляночка♪

どこにいたの?ポドリャーノチカ、転んで顔も洗わず一週間も。
立ち上がって!顔を洗って!そして好きな人のところへ

優しいメロディに合わせ歌いながら、真ん中にかがんだ人の周りを手をつないで歩きます。そのあとみんな一緒に踊ります。とてもゆったりしていて、子どももすぐに踊れます。歌の区切りで真ん中にいる人は、次に中で踊る人を選び交代していきます。

写真はユリアさんの小学校での様子です。ウシワーンカという袖に刺繍があるブラウスや色とりどりのウクライナの民族衣装を着ています。男の子の衣装は胸に刺繍があります。頭には花飾りやリボンを付け、とても華やかです。

編集後記

先日名古屋で雑踏の中を歩いていたら、あちこちから外国語の会話が聞こえてきました。カメラ屋の店先では店員さんが英語で応対し、帰りの電車では、仕事帰りのビジネスマンが、外国の人に何か聞かれて自然に答えていました。身近でこんなにも外国の方との共生が進んでいたのかと、知らなかった自分を反省。

(ツチノコ)